

光駅周辺地区拠点整備事業 本年度からの取組みについて

本年度からの取組みの概要

光駅周辺地区拠点整備基本構想

(平成31年3月策定)

- ◆エリアのクローズアップ
- ◆具体化のファーストステップ

次のステップへ

光駅拠点整備基本計画の策定

(策定主体：光市)

◆内容

基本構想に基づき、右記検討範囲（駅舎を含む南北自由通路、南北両駅前広場（駐車場、駐輪場を含む））の規模や配置、整備スケジュールなどを定める。

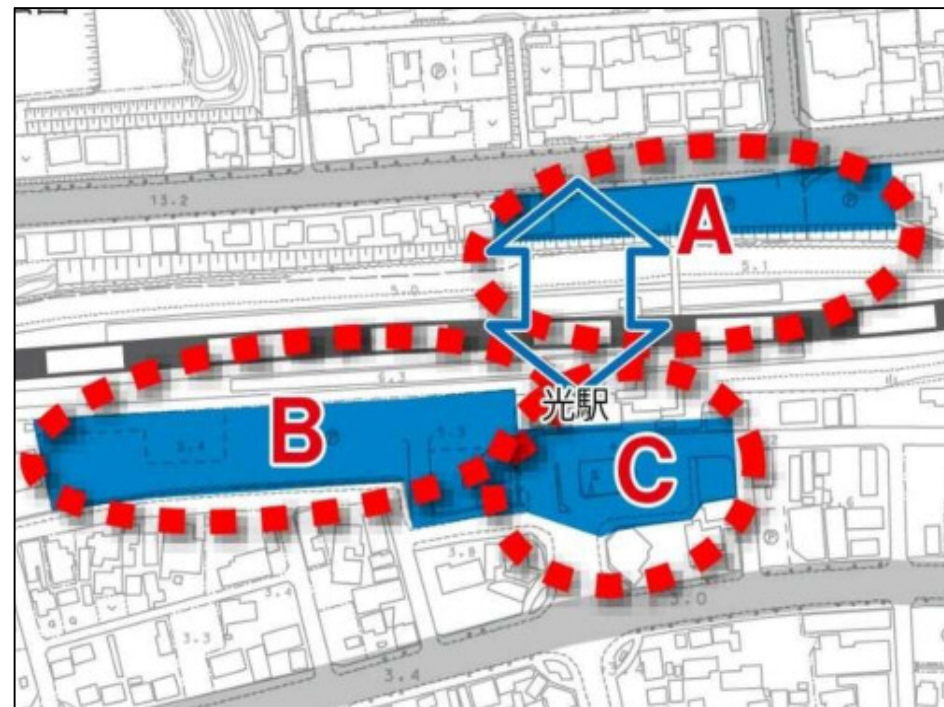
◆策定期間

本年度から概ね令和2年度の半ば頃まで

※市議会の議決案件

◆基本計画の検討範囲

※基本構想の「短期」の取組みで示すエリア



両側矢印：駅舎、南北自由通路

A：北口駅前広場を中心としたエリア

B：南口駐車場・駐輪場を中心としたエリア

C：南口ロータリーを中心としたエリア

光駅拠点整備基本計画の構成

【意見聴取・合意形成の場や機会】

光駅利用者ワークショップ

- ・ 光駅利用者を対象に3回実施
- ・ 第1回 (9/28)
- ・ 第2回 (10/4)
- ・ 第3回 (10/26)

アドバイザー

(学術的支援)

光駅拠点整備デザイン会議

(意見・提言・助言等)

パブリック コメント

(意見・提言)

市議会 (議決)

(提案)

(助言等)

【基本計画の構成】

現状と課題

◆利用実態調査

駅や虹ヶ丘跨線橋の利用者数などの利用実態や駐車場、駐輪場、バス、タクシー等の公共交通機関、送迎車両や通過交通などの交通実態を調査。

基本的な方向性

○ 駅前広場、南北自由通路、駅舎の整備の方向性

整備計画図

概算工事費

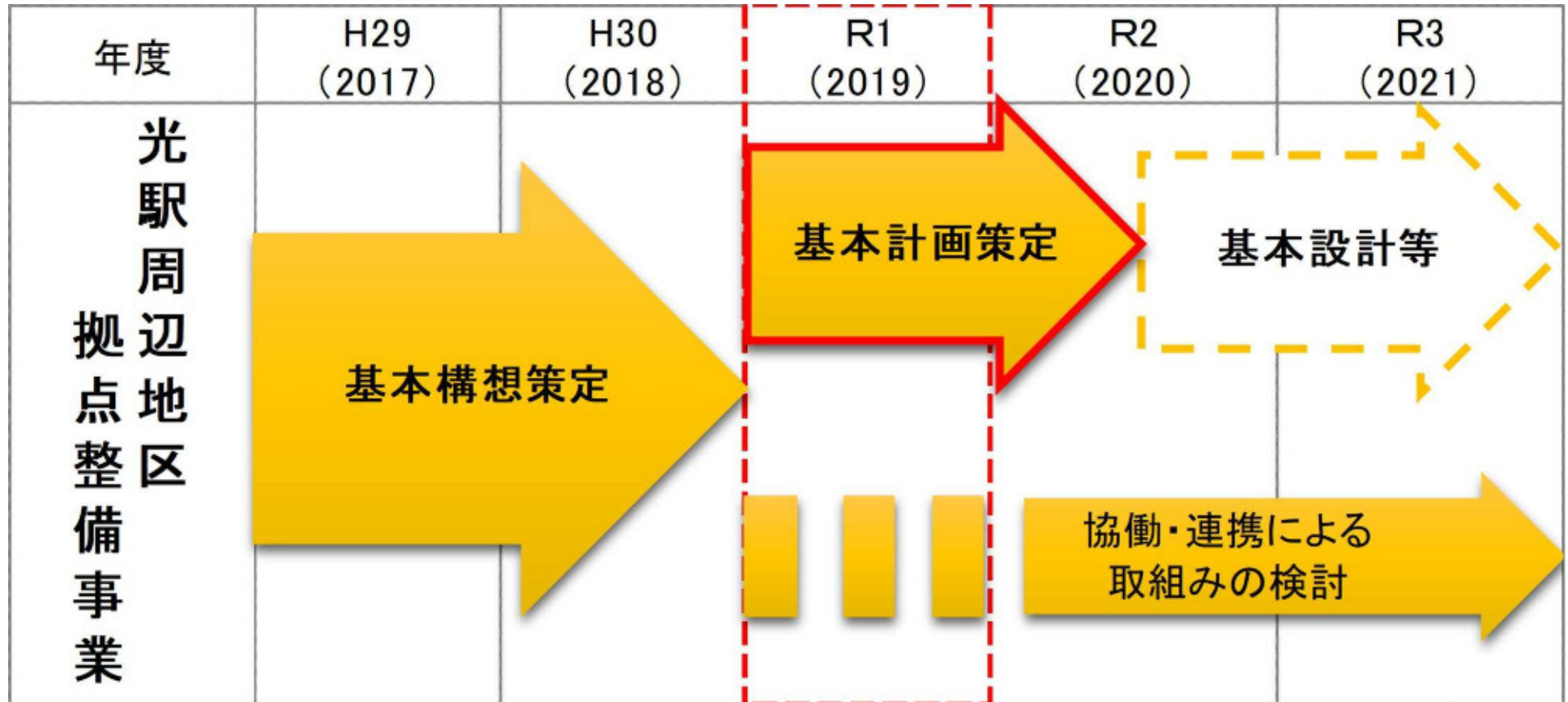
整備スケジュール

基本計画素案

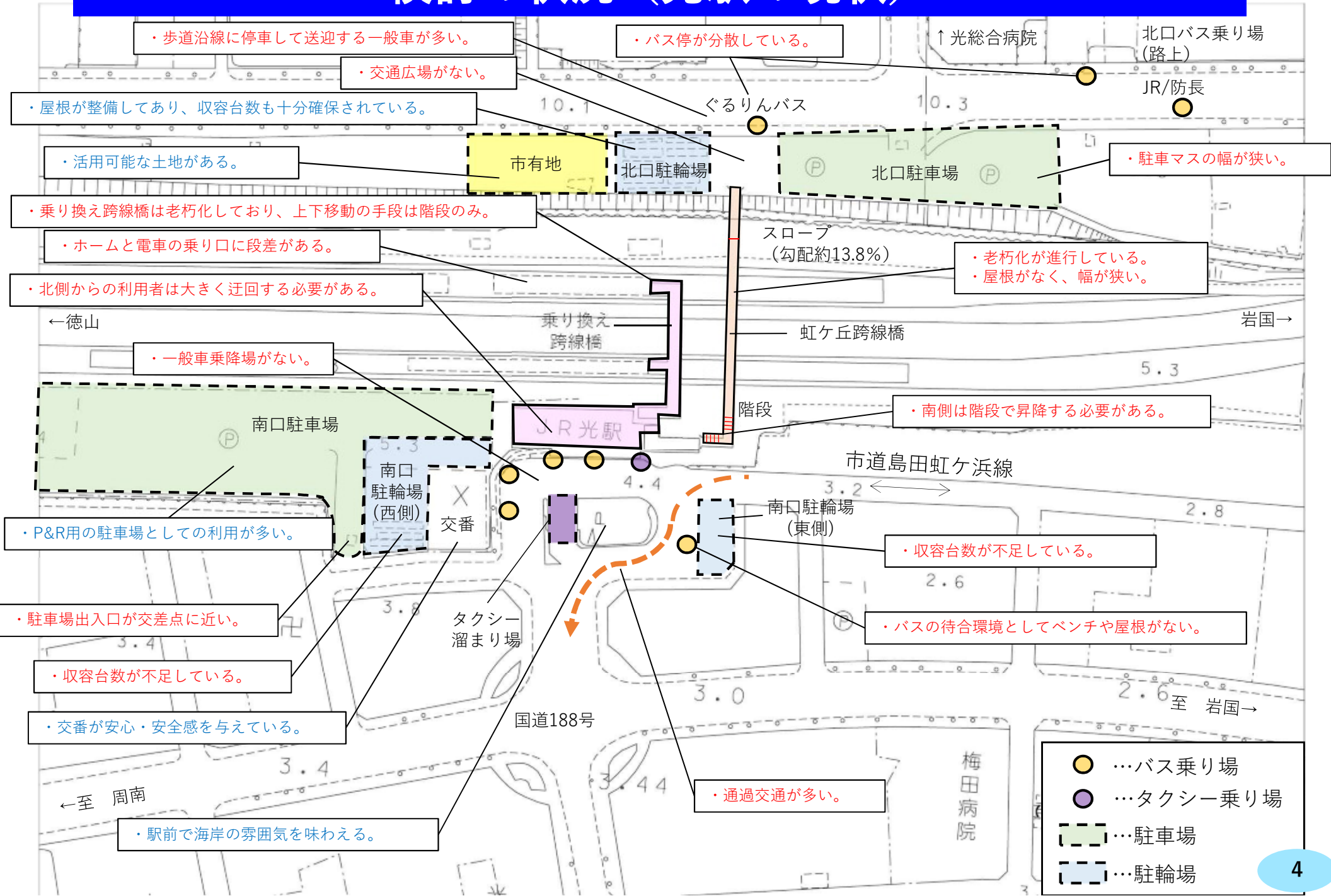
基本計画案

□ ……本日(第1回)の議題箇所

概略スケジュール



検討の状況（光駅の現状）



・歩道沿線に停車して送迎する一般車が多い。

・バス停が分散している。

・交通広場がない。

・屋根が整備しており、収容台数も十分確保されている。

・活用可能な土地がある。

市有地

・乗り換え跨線橋は老朽化しており、上下移動の手段は階段のみ。

・ホームと電車の乗り口に段差がある。

・北側からの利用者は大きく迂回する必要がある。

・一般車乗降場がない。

・P&R用の駐車場としての利用が多い。

・駐車場出入口が交差点に近い。

・収容台数が不足している。

・交番が安心・安全感を与えている。

・駅前で海岸の雰囲気を味わえる。

・通過交通が多い。

・駐車マスの幅が狭い。

・老朽化が進行している。
・屋根がなく、幅が狭い。

・南側は階段で昇降する必要がある。

・収容台数が不足している。

・バスの待合環境としてベンチや屋根がない。

- ...バス乗り場
- ...タクシー乗り場
- ...駐車場
- ...駐輪場